

BLOOMSBURY WALK No. 1

- BLOOMSBURY WALK
- 英国とロンドン
- 住まいと周辺
- ラッセルスクエア界限

BLOOMSBURY WALK

直訳すれば“ブルームズベリー散歩”、私の住んでいる地区の名称がブルームズベリーであり、私はこよなく散歩を楽しんでいるのでこの題をつけてみました。中身は私がロンドン及び英国を見聞したものを気ままに書き綴ったものです。

英国とロンドン

英国とは？ロンドンとは？日本語で言うイギリスは英国を指しますがイギリスの語源であるイングランドは英国を構成する国（イングランド、ウェールズ、スコットランド及び北部アイルランド）の一つ、正式名称はグレートブリテン及び北部アイルランド連合王国(私の記憶ではね)、そしてその首都がロンドンです。ロンドンといった場合どこを指すのか？現在ロンドンと呼ばれる Greater London Authority (GLA) 地区は 32 の特別区と1つのシティから構成されています。東京の場合は 23 区ですからロンドンの場合は 33 区になりますね。英国の地方行政制度は政権によって大きく変化してきており、現在はこのような組織になっています。GLA が東京都庁と同じかという行政的な機能という視点からはそうではありません。この説明はまたの機会に。

住まいと周辺

今私が住んでいる場所はロンドンの中心部、地下鉄(Underground)ピカデリー線(Piccadilly Line) ラッセルスクエア(Russell Square)という駅から 200m に位置する(改札を出て右に真っ直ぐ歩くと確かにある) International Hall というロンドン大学の学生寮です。住所で言うと Brunswick Square、建物の正面がその広場、郵便番号でいうと WC1 になります。このホールは Intercollegiate Hall でロンドン大学を構成する大学の学部及び大学院学生を対象に受け入れています。その受け入れ割合が



決められているようで、そのおかげで Late Application にもかかわらず私は入れたのでしょう。このホールは 1962 年 10 月 23 日にオープンし、今年で丁度 40 年になります。1954 年から 1961 年までインドにおいて英国高等弁務官(大使と同様な職位；英国は英連邦諸国には大使館ではなく高等弁務官事務所を設け、高等弁務官を派遣している。これは今でも変わらない)の任にあった Mrs. Vijaya Lakshmi Padit 夫人によると入り口右側のプレートに記されています。現在建て替えプロジェクトが進行していて、ウィークディの昼間は工事の騒音、特に今は基礎工事なので、部屋には相当な集中力が必要です。



ラッセルスクエア界限

住んでみないとわからないもので、この辺り結構ホテルが多い。ラッセルホテルはホテル然としているので最初からホテルとの認識があったが、オフィスビルと思っていたのがホテルだったり、住宅だと思っていたのがホテルだったりする。最もロンド

ンの中心部という地の利から考えれば数多くのホテルがあっただけのべきなのだが。地下鉄の便もよく大学に近いという立地なのだから。代表的なホテルは Russell Square に面して建つラッセルホテル、Meridian が運営している。HIS のプロモーションに出ていたホテルかな？インド・ジャイプールの Hawa Mahal “風の宮殿” という赤い砂岩で建てられた建物がありますが、全体の印象が似ていますね。これは私の第一印象ですが、今読んでいる A Beautiful Mind¹ のなかでナッシュが 1962 年 6 月ストックホルムで開催された国際数学会議へ出席する際ロンドンを訪れラッセルホテルに宿泊している。そのときの本人の印象は“非常に



豪華なホテル”として手紙に記している。今も当時と変わらない豪華さが外観から見て取れます。最初に説明したようにこの辺りにはホテルが多い。名称も Imperial Hotel, President Hotel, Ambassador Hotel 等蒼々たる名称のホテル(必ずしも名称のイメージとは比例していないが)や素敵なプチホテルがあります。これらはビクトリア時代の重圧な建物を利用したり、ビクトリアンスタイルの住宅をホテルとしている場合、また近代的な RC 造建物など様々です。古きよき時代のものを丁寧に修繕して使う伝統が感じられます。

(あ)

¹ シルヴィア・ナサー著、塩川優訳 新潮社
1994 年にノーベル経済学賞を受賞した天才数学者ジョン・ナッシュの絶望と奇跡を描いた伝記